

事業所名

発達サポートいまる

(児童発達支援)

支援プログラム（参考様式）

作成日

2026 年

7 月

7 日

法人（事業所）理念		私たちは、誰もが自分らしく生きる、共に生きていく社会を創造します。									
支援方針		利用者のご家族の心に寄り添い、声なき声をも未来につなげて生きる力を育みます。									
営業時間		9時		0分から		18時		0分まで		送迎実施の有無	ありなし
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	健康状態の維持・改善 ・子どもの心身の状態をきめ細かく観察し、平常と異なるサインに早期に気づく。 ・障害特性により意思表示が難しい子どもへの配慮（痛み・不調のサインを拾う）する。 ・必要に応じてリハビリテーション的支援を行い、機能向上を図る。 （例：姿勢保持、筋緊張の調整、摂食機能の支援） 生活習慣・生活リズムの形成 ・睡眠・食事・排泄などの基本的生活習慣の獲得を支援する。 ・健康維持に必要な生活リズム（起床・就寝・活動の流れ）を整える。 ・食事場面では、咀嚼・嚥下の状態 口腔内の感覚過敏 姿勢保持 手指の運動機能に応じて自助具の活用や環境調整を行う。 基本的な生活スキルの獲得 ・身の回りのこと 着脱、手洗い手順カード、片付けルールを作る（構造化）自分で行う力を育てる。 ・安全な生活行動 危険予測は、絵カードなどを使う。交通ルールは散歩時に行い、身につくように支援する。 ・自分の体調や気持ちを言語・非言語で伝える力を育てる。活動の前後の体調のチェックを行う。									
	運動・感覚	姿勢と基本動作の獲得 ・立つ・座る・歩く・手を使うなど、生活の基盤となる動作を安定させる。 感覚の調整（統合） ・過敏・鈍麻・感覚の偏りを理解し、環境調整や遊びを通じて「ちょうどよい刺激」を得られるようにする。 身体移動能力の向上 ・歩行・方向転換・バランスなど、生活場面で必要な移動スキルを楽しく体を動かしながら育てる。 補助的手段の活用 ・必要に応じて、姿勢保持具、環境調整（光・音・温度）、感覚過敏への配慮（イヤマフ等）を行う。									
	認知・行動	注意・集中の支援 ・課題の量・時間を調整（短時間×成功体験）を行い「できた。」「もっとやりたい。」を引き出していく。 ・刺激の少ない環境設定（机の上を整理、視覚刺激の軽減）を行い集中できるようにする。 ・タイマーや視覚支援することで「見通し」を提示していく。 ・興味のある活動から導入し、集中を引き出す支援を行う。 記憶・理解の支援 ・絵カード・写真・実物を使った視覚支援・手順を段階化（1→2→3の順序提示）・モデル提示（職員がやって見せる） 繰り返し経験で定着を促す。 課題遂行・問題解決の支援 ・分類・マッチング・順序づけなどの認知課題を行う。 ・「できた」経験を積み重ねる構造化していく。 ・失敗しても再挑戦できる環境づくりを行う。 ・選択肢を提示して意思決定を促す。 行動の自己調整支援 ・気持ちの可視化（感情カード、気分スケール）をすることで自分の気持ちに気づく支援を行う。 ・切り替えの練習（タイマー、予告、合図）を行う。 ・落ち着くスペースを確保しておく。 ・行動が難しい場面の分析（ABC分析：前後の状況を整理）を行う。 ルール理解・社会的行動の支援 ・順番・待つ・共有の練習をする。 ・散歩時の交通ルールを行う。 ・危険予測（絵カード・ロールプレイ）ができるように支援する。 ・集団活動での役割理解（当番活動など）を行う。									

	言語 コミュニケーション	ことばの理解を育てる支援 ・絵カード・写真・実物を使って語彙を増やしていく。・「見る→聞く→触る」の多感覚提示する。・単純な指示から段階的に難易度を上げる。・視覚支援で状況理解を補う（スケジュール、手順カード） ことばの表出を促す支援 ・子どもの発声・発語を待つ「待つ支援」・選択肢提示（どっち？カード）で要求を引き出す・モデル提示（職員がことばをゆっくり示す） ・カード・コミュニケーションブックで表出を補助 非言語コミュニケーションの支援 ・指差し・視線合わせの練習をする。・共同注意（同じ物を見る・指差しに反応する）・ジェスチャー（ちょうだい、ストップ、OK）を使ったやり取りを行う。 ・表情の読み取り（表情カード、写真） やり取りの基礎を育てる支援 ・順番・待つの練習をする。（簡単なゲーム）・呼ばれたら応答する練習をする。・「どうぞ」「ありがとう」などの定型表現を行う。・短いやり取り（質問→答える→返す）を楽しむ AAC（補助代替コミュニケーション）の活用 ・絵カード・写真カード・スケジュール表を用いた支援を行う。		
	人間関係 社会性	他者への興味・関心を育てる支援 ・名前呼びへの応答を促す・職員との1対1の関わりからスタートする。・同じ活動を「並行して行う」ことで他者への意識を高める。 ・共同注意（同じ物を見る・指差しに反応する）を育てる。 やり取りの基礎を育てる支援 ・挨拶の練習（視覚支援・モデル提示）・「どうぞ」「ありがとう」などの定型表現を楽しむ。・簡単な質問応答（名前、好きなもの）をする。 ・順番・待つの練習（ゲーム形式）をする。 社会的ルールの理解支援 ・順番・共有のルールを視覚化をする。・散歩時の交通ルールを知らせて守る。・危険予測（絵カード・ロールプレイ）・集団活動の流れをスケジュールで提示する。 集団参加の支援 ・活動の見通し提示（スケジュール、タイマー）・集団の中で安心できる位置・環境の調整・役割を持つ（当番活動）ことで参加意欲を高める。 ・集団が苦手な子は「小集団→大集団」へ段階的に移行する。 感情理解・感情調整の支援 ・表情カードで気持ちを理解する・気分スケールで自分の状態を可視化する。・落ち着くスペースを確保しておく。・気持ちの切り替え練習を行う。（予告、合図、タイマー）		
家族支援		家族の思い・状況の把握を丁寧に行う。 障害特性・発達の理解を促す支援を行う。 家庭での生活支援（生活リズム・行動面の助言・提案を行う。） 情緒的支援（家族の安心） 情報提供・相談先の紹介（必要に応じて行う。） 家族との協働（共同で子どもを支える） きょうだい児に対する相談援助を行う。 保護者同士の交流の機会を提供する。	移行支援	就学後の生活・学習にスムーズに適応できるように支援する。 児童発達支援で培った力を学校生活につなげていけるように支援していく 環境変化によるストレス・不適応を防ぐ。 保護者の不安軽減と、関係機関の連携強化をはかる。
地域支援・地域連携		保育所、こども園、幼稚園、学校、サービス事業所、相談支援事業所、医療機関の情報共有、連携や調整をはかる。	職員の質の向上	・職員の資質の向上の支援に関する計画を策定し、その計画にかかる研修実施をし、学習した内容を話し合い共有する。 ・日々の療育や障害の特性など疑問に思うことは、毎月の職員会議、その都度話をする。 ・毎月ケース検討会を行い、情報共有を行う。
主な行事等		お花見、こどもの日、お買い物体験、クッキング、七夕、水遊び、木の実工作、ハロウィン、クリスマス、お正月遊び、節分、お雛様、クッキング、モノづくり、かがく遊び、お買い物外遊び、遠足		